

2006 年 9 月 1 日発行
発行人：徳丸 公義
発行所：神戸市中央区海岸通 8
神港ビルヂング 5 階 509
TEL：078-393-0050
FAX：078-393-0051
E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
URL：<http://www.kobekeio.org/>
編集：堀 友子・八巻 晤郎

～～8 月例会報告～～

阪本 豊起 (昭 49 法)

8 月 18 日 (金) 猛烈な暑さの続くなか大阪市立大学大学院経済研究科教授の山下英次氏をお迎えし「東アジア共同体の推進——日本にとっての必要性」と題する講演を頂きました。



山下氏は国際通貨論がご専門ですが、ヨーロッパのユーロエリアのような東アジア地域統合の可能性を模索する国際学術シンポジウム (大阪国際会議場で本年 10 月 27 日から 3 日間開催) の実行委員長を務められておられます。経済のグローバル化が急速に進展するなかで世界における日本の在り方を考えることは当に今求められていることですが、この時期に最高の講師のお話を伺えたことは大きな収穫だったと思います。山下氏は昭和 45 年経済学部卒で東京銀行を経て学者の道に進まれ、我が倶楽部の会員でもありました。

講演の後、暫く参加者において質問やら議論やら主張やらでワイワイと過ごしました。

欧米では家庭においても政治について議論をしていると言われておりますが、わが国においては倶楽部のような親睦団体においては政治と宗教の話はタブーとされております。それは兎角自説を主張するばかりで相手の考えについて柔軟に耳を傾ける姿勢に欠け、議論しても結論は変わらず後味の悪い感情だけが残ってしまうからでしょう。しかし、私達もそろそろ大人の議論ができるようにトレーニングして行かなければなりません。そのように意識したうえで、基調となる考えを講師

に示して頂いたうえで議論する機会を持つことも倶楽部の役割かなと思った次第です。

それ以外には藤井文明君 (昭 39 工) のロンドン行きのレポートがあり (お世話をされていた元留学生の家庭に宿泊されたそうです)、また「ガラス工芸文化をもっと広めたい」と意欲満々と神戸新聞に紹介された KOBE とんぼ玉ミュージアムの館長宮本恭庸氏 (昭 62 経) の活躍が紹介されました。いつものとおり寺本勤君 (昭 46 商) の好意による淡路屋の特製弁当と飲物付きで 2 千円の会費でした。

以下、山下氏からのご案内です。

第 14 回 大阪市立大学国際シンポジウム

日時：2006 年 10 月 27 日 (金) 13:00～ 29 日 (日)
場所：大阪国際会議場 (通称「グランキューブ大阪」)

10 階会議室 <http://www.gco.co.jp>

- ・参加費； 一般＝¥2,000 学生＝¥1,000
 - ・締切日；2006 年 10 月 6 日 (金)
 - ・定員；500 名 (応募多数の場合は抽選)
 - ・申し込み先；〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-8-1 プロメナ神戸 (株) プロ・アクティブ内
第 14 回大阪市立大学国際学術シンポジウム実行委員会事務局
e-mail：ocuis2006@pac.ne.jp
FAX：078-366-5051
 - ・問合せ先；同上 TEL：078-361-7223
- 参加希望者は、往復ハガキ、e-mail、FAX のいずれかで、住所、氏名、年齢、職業 (所属)、TEL/FAX、メール・アドレスを明記し、申し込みください。
- ・ホームページ；<http://www.pac.ne.jp/ocuis2006/>
<http://www.osaka-cu.ac.jp>
<http://www.deljpn.ec.europa.eu/>
- (主題要旨ご希望の方は、倶楽部にご請求ください。)

『人生の愉しみ』その二 囲碁の話

五代 友和 (昭37商)

有馬温泉に秋の紅葉で有名な瑞宝寺があります。寺の奥には鼓が滝という少し小ぶりだけれど美しい滝があります。その瑞宝寺の庭園に永い年月風雨に打たれたのでしょうか、角が丸くなつた石の碁盤が置いてあります。聞くところ、温泉好きの太閤秀吉がよく有馬に来てその「石の碁盤」で楽しんでたようです。

碁は古く中国で生まれ、韓国を経て日本に渡りました。その後、日本ではお殿様の前で模範対局をする「お城碁」など一つの文化として定着しました。近年は英才教育をすすめる中国や韓国に、国際戦では引けをとっています。今やヨーロッパ、アメリカ、はじめ世界各国に碁は普及しています。

碁は最初のとっつきが悪いというか難しいものですから、碁を知らない人から見ると白と黒の石がバラバラあつて何のことかさっぱり分からないということになります。でも碁から出た熟語というか、ひよっとして人生訓というものが結構多いんです。

一寸考えて思い当たるものだけでも
碁石…そんなの碁石じゃないかということが多いですね。

碁石…これがしつかりしてないとつまく事が

運ばない。

捨石…には人生の中にもありますね。

一目置く…私の周りにもそんな方が一杯いらつしやる。

岡目八目…当事者でないからよく分かるなんてことしょっちゅう。
白黒つける…はつきりさせるという意味。

大局観、着眼大局、着手小局…これが必要とするケースはほんとに多いです。

死活問題…石の「活き死に」が勝負所なんです。

先手必勝…将棋でも同じ、人生の勝負でも同じ。

局面…政治の世界でも、経営の場合でも厳しい局面での多いですね。

見た目では白い石と黒い石のゲームだけのことですが実に多くの示唆を与える言葉が生まれて来ているんです。奥が深いゲームなんです。

「先を読む」ことをすごく必要とするのですが、私のようなへボ碁打ちの場合は考えているとすぐ又元に戻ってしまいます。

世の中には先見性のある方がいらつしやるようですが、私なんかは精々五・六手まででそれも所謂「勝手読み」なんです。仕方なしに私は手を読むことはほどほどに「形」を覚えて打つようにしています。

ところで人生にも「あるべき形」というのが多くありますね。今の時代、考えられない凶悪な事件が続くこの時代に一番必要とされる「あるべき形」は「思いやり」や「長幼の序」だと思えます。他にも大切なことはたくさんありますが守銭奴というのでしょうか、時代の窮児ともてはやされて、金を儲けて何が悪いと毒づいてお縄になつた輩が現れるこの時代、曾てあつたこの日本の節度ある民の心をもう一度取り戻したいですね。

話は戻りますが、神戸慶應倶楽部に碁同好会があるのをご存知ですか。月一回の例会には理工学部碁同好会の方々や宝塚慶應倶楽部、最近では大学の碁部OBの会とも交流しています。又、日本棋院の女流、水戸夕香里三段にも年二回手ほどきを受けています。水戸先生は優しくて厳しくて、でも、とにかくほんとに素敵な美人の先生なんです。(編集部注・八月号同好会便りに写真掲載)

毎月第一金曜日の碁例会を皆さん一度覗いてみませんか。

会員だより

《私の戦い》

齋藤 光豊 (昭24経)

歌歴わずか4年、拙歌を投歌します。

『学徒動員 (昭和18年12月1日・1943年)』

- 学徒動員壮行会に少女らの「惜別の詩」嗚咽にむせぶ
- 清く散れ名こそ惜しめ強者と唄われて征きし
学舎の丘
- 杳き日の学徒動員我が父は生きてくれよとそつと云いたり

『南へ』

- 灯り消し激戦地へ征く船の上南十字星をひたに探せり
- 生みの母の顔見たかりしと船上に我が手握りて逝きし戦友はも
- 海南島沖に戦友葬りし元日の暗き波濤よ六十年過ぎぬ

『戦場』

- 執拗に地上掃射し去る敵機生きているかの声飛び交いぬ
- 砲声止む星美しく何故俺は此処に居るのか聞き合うのか
- 灯りに寄りて糸通す母の横顔を懐いておりぬ戦場の闇

(註)「惜別の詩」島崎藤村 若菜集

“きみがさやけきめのいろも
きみくれないのくちびるも
きみがみどりのくろかみも
またいつかみむこのわかれ“

「惜別の詩」は今猶カラオケなどで唄われていますが、あれは昭和19年に中央大学生によって作曲されたもので、我々が出征する時は大声で誦するのみでした。

それでも5・6人のセーラー服の女学生が清い涙を流して誦してくれました。淡い恋心を感じた人もそのなかにいました。

小生83才まだまだなまぐさいですね。

《白浜旅行》

河合 良行 (平2経)

夏になると仕事が忙しい為、なかなか家族サービスできません。ようやく連休がとれたので久しぶりに和歌山の白浜に行ってきました。息子も2歳半になったのでアドベンチャーワールドに是非連れて行きたいと思っていました。私自身、白浜に来るのは15年ぶりでしたが、最近は交通の便もよくなり昔は5時間かけて行っていたのが2時間半程で付く事が出来ました。

アドベンチャーワールドに入るとすぐに噴水があるので、驚いた事に何故かペンギンが泳いでいました。動物園ならガラス越しに見るくらいで、間近で見ることの出来ないペンギンが目の前で泳いでいたので息子も喜んでいました。でもやはりここでの見所はイルカショーです。鯨のように大きいイルカ(少しオーバーですが)が繰り出す技の数々！高いジャンプで観客席は水浸しでした。興奮冷めやらぬうちに今度はサファリへ。普段は近く王子動物園に行く事が多いのですが、この日は車の中から動物が見ることができるので、息子も興味津々！



しかし、さすがに夏は暑いのかトラやライオンは、バテバテでぴくりとも動きませんでした。結局息子が一番喜んだのは、犬とのふれあい広場でした。動いている犬は、なかなか捕まえないので寝てる犬を探しては、なでなでしていました。今日はそんな息子の為の一日で終わりました。その後は宿でのんびり。白浜海岸を見ながらゆっくり露天風呂につかりました。この日は、少し天気が悪かったものの露天風呂からは、白浜海岸に打ちあがる綺麗な花火が何十発も見ることが出来きとても満足でした。息子は花火が上がるたびに「わー、すごい！」と感嘆の叫び声をあげていました。わが子ながら贅沢？な旅行でした。



犬とのふれあい広場

わが子ながら贅沢？な旅行

次の日は、あいにくの雨でしたが久しぶりの白浜をのんびり楽しんで帰りました。

《ロンドン三田会との交流》

藤井 文明 (昭39工)

久し振りにロンドンを訪れ、ロンドン三田会の皆さんと交流してきました。今回はまずマンチェスターから旅を始め、郊外に居を構える藤岡幸夫（関西フィルハーモニー管弦楽団正指揮者、神戸慶應倶楽部会員）夫妻を訪ねました。彼は日本国内での演奏活動を充実する為、当地を引き払って日本へ引越す真っ最中にお邪魔してしまいましたが、快く迎えてくれて音楽談義と美味しい食事で時の経つのを忘れました。翌日には風光明媚なチェスターを、翌々日にはリバプールを訪れ、その次の日にはリーズを訪れてホームステイとして家で預かった二人の若い女性と再会しました。一人はドイツ人のアニタ、もう一人は中国系のエレンで、アニタの真新しいアパートで三日間も泊めて貰い、食事もお世話になりました。その後ロンドンへ移動し、地下鉄駅の近くが便利と決めたホテルが実は駅が改修中で閉鎖されており、一つ前の駅から靴をごろごろ汗をかくところでしたが、寒いくらいの気候で汗かくことはありませんでした。折角ロンドンで滞在するならロンドン三田会の皆さんと交流しようと予め連絡しておいて、会



長の石田君、副会長の山本君、代表幹事の小峰君、常任幹事の岩田君などが日系の居酒屋「安芸」に集まり、

ビール、焼酎、ワインと日本料理に舌鼓を打って大いに語り合いました。「安芸」の経営者も塾員でロンドンの皆さんが最良にしている店でした。外国で頑張っている塾員をねぎらいつつ、日本での再会を期待する旨約束して名残惜しくお別れました。その翌日にはローヤル・アルバート・ホールでBBCフィルの演奏を聴く贅沢もやってきました。

その後オランダへ移り、スキポール空港から近いライデンにて、やはり家でホームステイしたオランダ人のアニタの家で三日間泊めてもらいました。食事も全て私が作るから外では食べないと言ってきて、少し塩辛いパスタ料理をふんだんに作ってご馳走してくれました。ホームステイしている時には生活習慣上の行き違いもありました

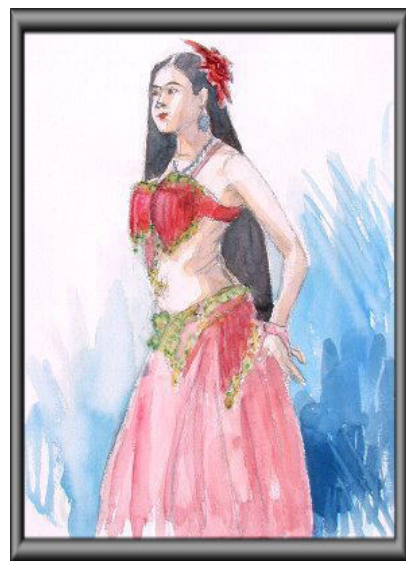
が、こうして大変喜んで受け入れてくれると本当にホームステイを預かって良かったと感慨深い思いです。

帰国した翌日にイギリスでテロ未遂が摘発されて空港が大混雑しましたが、それを直前のところで切り抜け幸運に帰国できました。

同好会だより

イーゼル会

《今月の絵》



玉田 和子 (昭46文)

KKJC

♪真夏のジャズライブ♪

浅沼 清之 (昭36経)

8月5日(土)、KKJCのメンバーである垣屋高文さん(昭39経)が、神戸北野坂のライブハウス「デイバ

イデイ」で、ソプラノサックスの初デビューをしました。彼は若い頃に始めましたが、仕事で中断し、最近、



本格的に再開されたとのこと。NHKジャズサロンのOG華内玲子さんのピアノに合わせて、最初は緊張気味でしたが、後半は、「センチメンタルムード」

等、すばらしい音色を聴かせてくれました。カンガルーの黒いベレー帽に、黒ずくめのスタイルが、一流プレーヤーの雰囲気をも漂わせました。慶應 OG 團裕子さんの飛び入りのヴォーカルも入り、グラスを傾けながら、和気藹々としたライブとなりました。

8月13日(日)、三ノ宮駅北の「グレートブルー」において、團裕子さんのライブが開かれました。

“ダンディーナイト”と称し、ピアニスト安藤義則さんとの共演です。ポピュラーからスローバラードまで20数曲聴かせてくれましたが、掛け合いのトークも軽妙で、最近は、余裕を感じさせます。B 嶋中潤さん、中山賞受賞の T 岩井千尋さん、その他のゲストも参加し、ライブを盛り上げてくれました。

これから、本格的なジャズシーズンを迎えますが、当面の予定は次の通りです。

9月6日(水)JazzLive atGreatBlue 團裕子 vo. 宮本直介 b. 安藤義則 p.

9月16日(土)Big Band in 四天王寺 垣屋高文 s.

9月22日(金)レフトアローン
小川理子ライブ 宮本直介 b.
竹田達彦 d. 宮哲之 Ts. 藤井貞安 p. ほか

10月7-8 神戸ジャズ St.
神戸北野坂

10月20-22 秋のジャズツアー 三重県鳥羽「エクシブ鳥羽」鍋島、小川、沢崎、嶋中ほか ライブとゴルフまたは観光

これらのイベントについては、KKJC世話人：近藤正さん (090-8446-9382 ludy@oak.ocn.ne.jp) までお問い合わせください。



♪KKJC 発ペンマーク入り三色帽子♪ついに完成！

9/3の岸和田での関西合同三田会、9/7の慶早ゴルフ、この秋の神戸ジャズストリート(10/7~8)でぜひともご着用願います。

お申し込みの方には業者、または帽子委員会を通してお手元に届く手はずになっています。また事務局でもお引取りできます。(月~金の11時から午後3時まで)

なお、申し込みをされなかった方の申込希望を見越して、追加注文できるように業者と交渉しました。追加注文は10月31日締切、12月末納入可能です。

詳しくはBRB5月号同封またはメールマガジンVol.83に添付のチラシをご覧ください。(チラシは倶楽部にご請求ください。)

ゴルフ同好会

《KLA とのジョイントコンペのご案内》

10月13日(金) 芦屋カンツリー倶楽部

KLA(関西婦人三田会)との秋の懇親ゴルフコンペを開催いたします。

スタート時間は8:14と多少早いですが、プレーフィーは14760円(キャデイ付き、昼食・懇親会費は除く)と通常より割安です。皆さま奮ってご参加ください。

参加ご希望の方は、9月末日までに事務局または世話人までお申し込みください。参加者には追って詳細をご連絡します。

近藤 正(世話人:090-8446-9382)

囲碁同好会

9月から世話人が交替しました。

例会日は第1金曜日、倶楽部ルームで開催です。

菊田 義正(昭42商) kikuta44@d3.dion.ne.jp



会員の輪

このコーナー、は新しく入会された方の自己紹介やご無沙汰会員の近況報告等を紹介する交流広場です。

今月は残念ながら空席となりました。

普段、会の行事に出席できない方も誌面に登場して参加してください。皆さんの投稿をお待ちしています。(編集部)

★9 月度例会は関西合同三田会（泉州）を以て振替になります。9 月例会はありません。

～～10 月例会予告～～

10 月 20 日（金）18：30～ 倶楽部ルーム

講師：浜野 潔 関西大学経済学部教授

（昭和 56 年経済学部卒）

テーマ：「歴史から見た人口減少社会」

～ワグネル男声合唱団神戸公演のご案内～

若い現役生の活躍の応援よろしくお願ひします。

9 月 10 日（日）午後 2 時より

神戸文化ホール 中ホール

チケット発売中（1 枚 1500 円）

事務局にお問合せください。

会員の皆さまどしどし原稿をお寄せください。

「BRB」についてのご意見、ご感想もお聞かせください。

堀 友子 tomoko@1968.jukuin.keio.ac.jp

八巻晤郎 yamaki@1965.jukuin.keio.ac.jp

～～事務局よりお願い～～

- ◎ 例会等にご出席の会員様はお食事等の準備の都合がありますので、事前に事務局までお申し込みをお願いします。なお、お申し込み後に連絡なしで当日欠席された場合はキャンセル料を頂くことがございますのでご注意ください。
- ◎ 住所・電話番号・メールアドレスの変更がある場合は、その都度必ず事務局にお知らせください。

～～今後の行事予定～～

- 9 月 7 日（木）慶早ゴルフ対抗戦 神戸ゴルフ倶楽部
- 10 月 13 日（金）KLA交流コンペ 芦屋カンツリー倶楽部
- 10 月 15 日（日）連合三田会 日吉
- 10 月 20 日（金）例会 倶楽部ルーム
- 11 月 17 日（金）例会 倶楽部ルーム
- 12 月 9 日（土）家族例会 ポートピアホテル
- 2007 年 1 月 5 日（金）賀詞交歓会 倶楽部ルーム
- 1 月 10 日（水）福澤先生誕生記念会 大阪
- 1 月 12 日（金）関西不動産三田会合同例会 西村屋
- 2 月 14 日（水）例会「にぎり酒を楽しむ会」 場所未定
- 3 月 14 日（水）例会 東天閣

◎詳細につきましては、BRB・メールマガジン等でお知らせいたしますので、毎月ご確認ください。

◎同好会の日程につきましては、各世話人にお問い合わせ下さい。

編集後記
○心頭滅却すれば火もまた涼し…って訳には中々いかない。汗だらだらかきながら何か(?)に熱中、そして後の冷たいビールで一息！これが一番の解消法かも。
それにしても神戸の皆さんは元気です。見習わなければ！
○暑かった夏！お盆と終戦記念日それに高校野球とくれば八月は何もかもが熱くなる日本列島！それもツクツクボウシが鳴き出すとなにやら風も涼しげになり空ゆく雲も掃いたように流れいよいよ秋の到来。今年は関西合同三田会が九月早々に岸和田で催され名物のだんじり疾走を見せるといふ。だんじりの元気をもらって実りの秋を収穫多きものになりたい。
(晤)